

## 環境活動と市民活動のコラボ！

### 生ごみの堆肥化（ごみ減量）と地域の関わりを考える （防災・町会活動・介護・仲間づくり・子ども食堂 etc）

対象 : 大人  
 人数 : 10～20 人  
 分野 : ごみ・循環社会  
 授業時間数 : 2 時間  
 場所 : 室内

<p>ESD プログラム への 想い</p>	<p>野菜を自家栽培している方が余った野菜を、子ども食堂に寄付されていることを知り、家庭から出る生ごみでできる堆肥で作る野菜が、個人の満足だけでなく社会とつながることができると思います、このプログラムを作成しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールコンポストでの生ごみ堆肥化。</li> <li>・出来上がった堆肥を使って、社会活動に生かす。</li> <li>・堆肥化という個人の環境活動を、学習者ならどう使うか広がりを考える。</li> <li>・個人の好きで楽しい環境活動が社会とどうつながるか考えてみる。</li> </ul>
<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者が自分の関心ごとや得意なことが、どう世の中と関わっていけるのかを考える過程を習得する</li> <li>・学習者が生ごみ堆肥をできるようになる。</li> <li>・学習者が地域にある課題を解決する手段として、生ごみの堆肥化やその他の環境活動を取り入れることを学ぶ</li> </ul>
<p>特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*環境活動が他の活動とつながる可能性を感じ、堆肥化（環境活動）を道具として使って何かできないか考えてみるのが特徴です。</li> <li>*環境活動は、一つの行動で完結し多様な人々への関心が持たれづらい。そこでそれぞれの活動や関心のある事柄に結び付けるアイデアを出していただくのが特徴です。</li> </ul>
<p>持続可能な社会づくりの構成概念</p>	<p>多様性・・生ごみの堆肥化からの広がり      有限性・・現状捨てられ、燃やされている生ごみが資源となり有効活用できることを知り、循環の環を完成させる。      連携性・・生ごみを堆肥化するという個人の活動を、他の事業・まちづくりになどに使ってもらおう。</p>
<p>重視する能力・態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③多面的、総合的に考える力、</li> <li>④コミュニケーションを行う力</li> <li>⑥つながりを尊重する態度、</li> <li>⑦他者と協力する態度</li> </ul>
<p style="text-align: center;">プログラムの流れ</p> <p>内容：生ごみ堆肥化を知り、社会活動の課題解決とむすびつけてみる          方法：①ダンボールコンポストの作り方を学ぶ          ②数人のグループに分かれ生ごみの堆肥化を真ん中に、思いつくキーワードをつなげていく          ③堆肥化行動を中心に広げたキーワードと社会活動や課題解決を結びつけてみる          ④結びつきを発表する</p>	

場所：室内・WS 形式の机配置 ねらい：環境問題の解決策が社会の課題と結びつく発想を引き出す。			
時間	ねらい	方法 場所	内容
30分	段ボールコンポストによる家庭の生ごみの堆肥化を知る	講義 室内	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体のごみ減量の課題、紙ごみと生ごみの課題を知る</li> <li>個人でも簡単にできる生ごみ堆肥化を知る。</li> <li>好気菌による生ごみの堆肥の手軽さと失敗が少ない事を知る</li> <li>メリット・デメリットを知る</li> </ul>
15分	・家庭での段ボールコンポスト堆肥化から、関連するものを書き出し広がりを感じる	WS 室内	・ホワイトボードに「生ごみの堆肥化」から「つながりのあるキーワード」を参加者から出してもらい記入、図にしてつないでいく。もしくは、参加者数人でグループを作り模造紙に記入し発表する
45分	生ごみ堆肥化と社会問題や身近な気になることと結び付けてみる	WS 室内	身近な課題もしくは、前述の図の中から課題を選び、具体的な組織図関係図などを作って、課題解決にあたる。
30分	課題と解決策の発表 各グループ別		各々のグループの発表と意見交換
SDGs との関連性	<p>2. 飢餓をゼロに（余っている所から必要な所へ）</p> <p>11. 住み続けられるまちづくり</p> <p>12. つくる責任つかう責任（12-3 食料の廃棄削減 12-5 廃棄物の発生削減）</p> <p>13. 気候変動に具体的な対策（可燃物としないことで CO2 削減）</p> <p>17. パートナーシップで目標達成</p>		
学校・地域等との連携上の考慮			
対象を 発展させる 可能性	<p>*子ども食堂に参加の方に生ごみを持参していただき、堆肥を作り、畑を持っている方たちと交流してあまり野菜を回していただくルートを作る。畑を作っている個人が安心・安全な生ごみからの堆肥を作って使った野菜を、子ども食堂などに寄付する。</p> <p>*町会で生ごみ堆肥化や公園の落ち葉の腐葉土づくりを通して、仲間づくりや、花壇などの地域活動に生かしていく。災害時の食料の足しになるようなミニ野菜花壇を作る。</p> <p>*防災の備品として、生ごみを処理できる段ボールコンポストを設置してもらう。</p>		
その他 補足事項	WS の用意。付箋、マジック、模造紙、ホワイトボード、テープなど 段ボールコンポストの作り方の説明 CD、パソコン、プロジェクター、スクリーン 段ボール、基材など		

プログラム作成者名（団体名）： 植木恭子（柏 段ボールコンポスト研究会）